

果樹情報 第6号 (R7. 6. 11～R7. 6. 24)

県中農林事務所須賀川農業普及所・JA 夢みなみ(すかがわ岩瀬地区、あぶくま石川地区)

1 果樹の生育状況

果実肥大について、もも「あかつき」及び、なし「幸水」「豊水」は暦日対比で平年よりやや大きく、満開後日数対比で平年並み。りんご「ふじ」は暦日対比で平年より大きく、満開後日数対比で平年並みの状況です。

表1 管内の生育状況(6月1日現在)

樹種	品種(調査地点)	本年		平年		平年比	
		縦径 mm	横径 mm	縦径 mm	横径 mm	縦径	横径
りんご	ふじ(須賀川市浜尾)	30. 3	28. 9	27. 1	24. 9	112%	116%
	ふじ(鏡石町高久田)	26. 9	22. 2	25. 8	23. 7	104%	94%
	ふじ(石川町沢井)	30. 1	27. 5	24. 0	21. 5	126%	128%
	つがる(石川町沢井)	29. 0	30. 7	25. 4	25. 5	114%	120%
	ジョナゴールド(石川町沢井)	30. 1	30. 5	26. 1	26. 0	115%	117%
	シナノスイート(石川町沢井)	26. 1	25. 2	26. 2	25. 3	100%	100%
もも	あかつき(須賀川市江持)	38. 0	30. 7	35. 6	28. 7	107%	107%
なし	幸水(須賀川市越久)	20. 5	24. 6	20. 3	22. 1	101%	111%
	豊水(須賀川市越久)	25. 1	26. 3	21. 9	23. 1	115%	114%

2 各樹種における栽培上の留意点

(1) 共通

ア かん水

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm 程度ですので、1回のかん水は 25～30mm 程度(10a当たり 25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくし、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう(地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます)。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) なし

ア 仕上げ摘果

仕上げ摘果の終わっていないほ場では、着果量等を確認し、肥大不良果の除去を中心に仕上げ摘果を行ってください。樹勢の低下や果実肥大の鈍化が観察される場合は新梢停止期前(満開後60～70日、須賀川市の幸水で6月21日～7月1日頃)に着果数の10～15%程度を目安に摘果し、着果数を調整します。できるだけ果形、肥大の良い果実を残し適正着果量に調整しましょう。着果量が少ない園地や品種では、小玉果や変形果であっても着果させ、着果量の確保を優先しましょう。

イ 新梢管理

新梢管理として側枝基部(20～40cmの範囲)の背面に発生した新梢のせん除を行いましょう。ただし、主枝・亜主枝上から直接発生する新梢の数が少なく、側枝更新のための候補枝の確保が困難な部位では側枝基部の側面から発生した新梢を1本残し、冬季せん定時に利用します。なお、新梢のせん除は、満開45～60日後(須賀川市の幸水で6月6日～6月21日頃)までに行うと花芽分化を促進しますが、満開後60日以降では樹勢低下や果実糖度の低下に結びつきやすいので注意してください。

また、満開後65日(6月26日)頃を目安に、予備枝及び不定芽新梢の誘引を行いましょう。予備枝は先端新梢の生育を促すため、6月上旬までに伸長の良好な新梢を1本に整理してください。

表2 なし「幸水」の摘果方法

作業名	時期	内容
仕上げ摘果	満開後 50 日 まで (6/11 まで)	・果実をよく観察し小玉果・サビ果・変形果を中心に摘果し、果梗が長く果形の良い果実を残します。最終着果量の10～20%増しにしましょう。 ・長果枝で2.5果そうに1果残します。 ・短果枝で3果そうに1果残します。

(2)りんご

- ア 仕上げ摘果
- 仕上げ摘果は満開60日後(須賀川市のふじで6月27日頃)までを目安に実施してください。果形や肥大状況等をよく観察しながら実施し、形質の良い果実を残しましょう。仕上げ摘果の程度は、「つがる」では3頂芽に1果(1果当たりの必要葉枚数45枚)、「さんさ」、「シナノスイート」、「陽光」、「王林」、「ふじ」は4頂芽に1果(必要葉枚数60枚)を目安とし、樹全体でその1～2割増しとしてください。また、仕上げ摘果の遅れは花芽分化率低下の原因となるのでご注意ください。
- 結実の少ない園地は着果数の確保を優先し、著しい不良果そうを対象に最小限度の摘果を行いましょう。
- イ 新梢管理
- 主枝や骨格枝の背面、切り口等の不定芽新梢をかき取り、薬剤の通りを良くしましょう。
- ウ カルシウム剤の葉面散布
- ビターピットの発生は、樹勢が強い園地や着果量が少ない園地で果実が大玉となりやすい場合や、土壌の過乾燥や過湿により土壌からのカルシウムの吸収が阻害される場合に助長されます。これらが想定される園地では、発生防止のためにカルシウム剤の葉面散布を実施しましょう。

表3 りんご「ふじ」の樹勢別の摘果方法

作業名	樹勢	着果量	時期	注意事項
仕上げ摘果	適当	4頂芽に1果	満開後 60日以内 (6/27頃)	・樹勢の弱い場合は早めに、強い樹では最後に行います。 ・上枝や立ち枝は多めに、下枝や下垂枝は少なめに着果させ果実の肥大を調節しましょう。
	強い	3頂芽に1果		
	弱い	5頂芽に1果		
修正摘果	適当	4～5頂芽に1果	6月下旬～ 8月下旬	・果形不良、肥大不良、青果、枝ずれ、虫害果などを適宜摘果します。 ・夏季せん定程度や葉の状態をよく観察し、着果過多にならないよう最終着果量を決定しましょう。

(3)もも

- ア 仕上げ摘果
- 果樹研究所における「あかつき」の硬核期開始は6月5日と発表されました(須賀川地域は果樹研究所よりも2～3日遅いと考えられるため、6月7日頃開始と考えられます)。硬核期間は極端な着果管理は控え、硬核期終了後の修正摘果で適正着果量にして下さい。袋かけを必要とする品種においては、仕上げ摘果終了後速やかに袋かけを実施しましょう。
- 本年の「あかつき」の核障害の発生率は平年より少ない状況です。発生状況は園地や品種によっても異なるため、状況を確認した上で作業に当たってください。
- 着果量が少ない園地や品種では、小玉果や縫合線が深い果実、軽度の変形果であっても着果させ、着果量の確保を優先してください。
- イ 新梢管理
- 樹冠内部や主枝、亜主枝基部、側枝基部の徒長しやすい新梢は早めに摘心や夏季せん定を行いましょう。
- なお、樹勢の弱い樹は葉面積の確保を優先し、夏季せん定は最小限としましょう。

3 病虫害防除上の留意点

ぐずついた天候が続くと病害の発生が懸念されるので、病虫害防除を徹底してください。特に、モモせん孔細菌病、ナシ黒星病の発生には十分注意してください。

(1) リンゴ褐斑病

5月下旬の本病の発生ほ場割合は、県中・県南地方で平年よりやや高く(5月28日付け害虫発生予察情報発生予報第3号)、今後の発生拡大が懸念されます。また、果樹研究所内殺菌剤無散布樹「ふじ」における果そう葉・新梢葉での発病は、5月20日に確認されています。落花30日後頃は本病の子のう胞子の飛散盛期であり、重要防除時期にあたるため、防除暦に従い防除を実施してください。

(2) リンゴ腐らん病

梅雨期は感染拡大のおそれがあるため、発生状況をよく観察し、発病部位は徹底して取り除きましょう。摘果後に果柄が残っている場合、そこから病原菌が侵入するため、仕上げ摘果の際は、離層形成部位から摘果するように心がけましょう。

(3) モモせん孔細菌病

梅雨期に入り降雨が多くなる場合、二次感染により発病が増加するおそれがあるため、引き続き注意が必要です。薬剤防除に当たっては、10日間隔でせん孔細菌病防除剤を使用しましょう。その際、早生種は収穫前日数に十分注意してください。

また、罹病部位は見つけしだい取り除き、発生拡大が懸念される場合は速やかに袋かけを行いましょう。

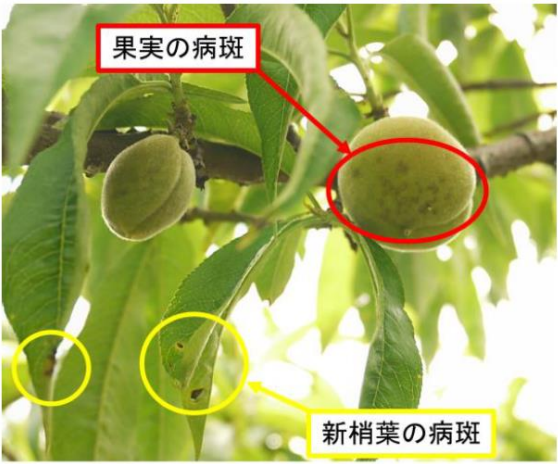


図1 新梢葉の病斑及び果実の病斑



図2 春型枝病斑の周囲での集団的な発病

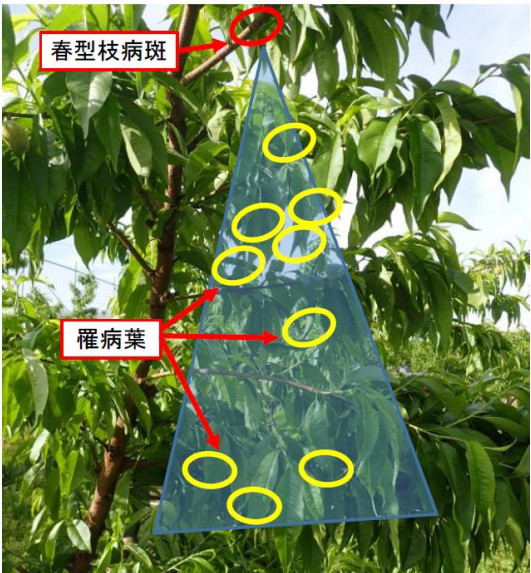


図3 春型枝病斑とその直下の新梢葉での発生

(4) モモホモプシス腐敗病、灰星病

梅雨期に入るとホモプシス腐敗病の重点防除期に入るため、伝染源となる芽枯れや枝枯れが認められる場合はせん除し適切に処分しましょう。また、灰星病も梅雨期が重点防除期であり、本病は果実の成熟とともに感染しやすくなるため、伝染源となる花腐れを除去するとともに、防除暦に従い6月中旬以降に両病害に防除効果の高い薬剤を使用しましょう。

(5) ナシ黒星病、輪紋病

5月下旬の黒星病の発生ほ場割合は、浜通り地方で平年よりやや高く(5月28日付け害虫発生予察情報発生予報第3号)、今後の発生拡大が懸念されます。梅雨期に入り降雨が多くなる場合、二次感染により本病の発病が増加するおそれがあるため、罹病部位は見つけしだい取り除くなど、耕種的防除を徹底しましょう。特に、「幸水」では満開後50日頃から本病に対する果実の感受性が高まり、重要防除期となるため、防除対策を徹底しましょう。また、輪紋病も梅雨期が重点防除期になるため、防除暦に従い6月中旬に両病害に効果がある殺菌剤を十分量散布しましょう。多発が予想される場合は、梅雨明けまで7日間隔で散布を行うと効果的です。



図4 果そう基部病斑



図5 発病葉



図6 発病果

(6) カメムシ類

病害虫防除所のフェロモントラップ調査における4月5半旬～5月4半旬の果樹カメムシ類の越冬世代の誘殺数は、8地点中5地点で、平年と比較して2～19倍と多い状況です(5月23日付け令和7年度病害虫防除情報)。

越冬世代成虫による加害は幼果期から始まる場合があるので、特に山沿いの園地ではカメムシ類の飛来状況をよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう。管内のトラップにおける誘殺状況は表4のとおりです。

表4 JA 夢みなみ・須賀川農業普及所カメムシトラップ調査結果

設置日	5月23日			5月22日			5月26日			6月3日		
	須賀川市和田六軒			須賀川市越久			鏡石町高久田			石川町		
調査日	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考
6/2	0	0		0	0		0	0		6/9 調査開始		
6/9	0	0		8	0		6	0		1	0	

(7) モモハモグリガ

病害虫防除所が実施した5月上旬の巡回調査において、モモ新梢葉における発生ほ場割合は、平年に比べ高く、一部のほ場では被害程度も高くなっています(5月21日付け令和7年度病害虫防除情報)。

第1世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、6月1半旬頃と予測され、第2世代の防除適期は6月2半旬頃と推定されます(表5)。

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意が必要です。



図7 モモハモグリガによる食害(絵描き症状)

(8) ナシヒメシンクイ

第1世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、6月3半旬頃と予測され、第2世代の防除適期は6月5半旬頃と推定されます(表5)。

本種の第1世代幼虫は、主にモモ等の核果類の新梢に寄生(芯折れ症状)し、第2世代以降はナシなどの果実に移行します。例年、ナシでの果実被害が多い地域では、近隣のモモ等における防除も徹底しましょう。

(9) モモノゴマダラノメイガ

被害が発生しているモモ園では、他のシンクイムシ類との同時防除も含め、防除暦に従い6月上旬頃から10日間隔で2～3回防除を行いましょう。被害果実は見つけしだい摘除し、5日間以上水漬けにするか、土中深く埋めましょう。また、前年に被害が多発した園では袋かけを早急に実施しましょう。

(10) ナシマルカイガラムシ

ナシマルカイガラムシ第1世代のふ化開始は、気温が2℃高く推移した場合、5月6半旬頃と予測され、ふ化盛期は6月2半旬頃と推定されます(表5)。

カイガラムシ類はふ化期の防除が重要であるため、防除適期を逃さないように防除しましょう。ただし、1回の防除では十分でないため、1週間から10日後にもう1度防除することが望ましいとされます。

(11) ハダニ類

ハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

表5 果樹研究所における防除時期の推定(令和7年5月30日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ		ナシマルカイガラムシ	
	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期	第1世代 ふ化開始	第1世代 ふ化盛期
2℃高い	6月1日	6月6日	6月15日	6月23日	5月31日	6月9日
平年並	6月2日	6月8日	6月19日	6月28日	6月1日	6月12日
2℃低い	6月2日	6月9日	6月22日	7月3日	6月1日	6月14日

起算日: モモハモグリガ越冬世代誘殺盛期 4月22日
ナシヒメシンクイ越冬世代誘殺盛期 4月21日
ナシマルカイガラムシ 3月1日(演算方法は三角法)

作成者: 県中農林事務所須賀川農業普及所
電 話: 0248-75-2181 FAX: 0248-72-8331

ご不明の点は、最寄りのJAまたは須賀川農業普及所にお問い合わせください。次回の発行予定日は、6月25日(水)です。